

各調査結果の詳細について(9月末時点)

①土質調査【調査完了】

- 地中の土質（砂、岩など）や、土の硬さを確認するための調査。
- 地表面から「盛土層」、「段丘層」、「大阪層群」の順で確認。

【盛土層（B）】

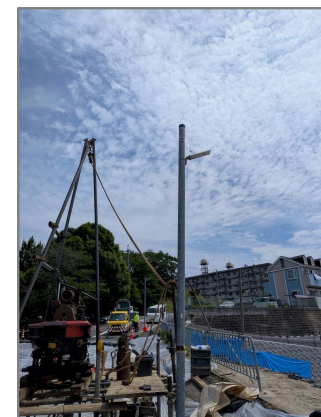
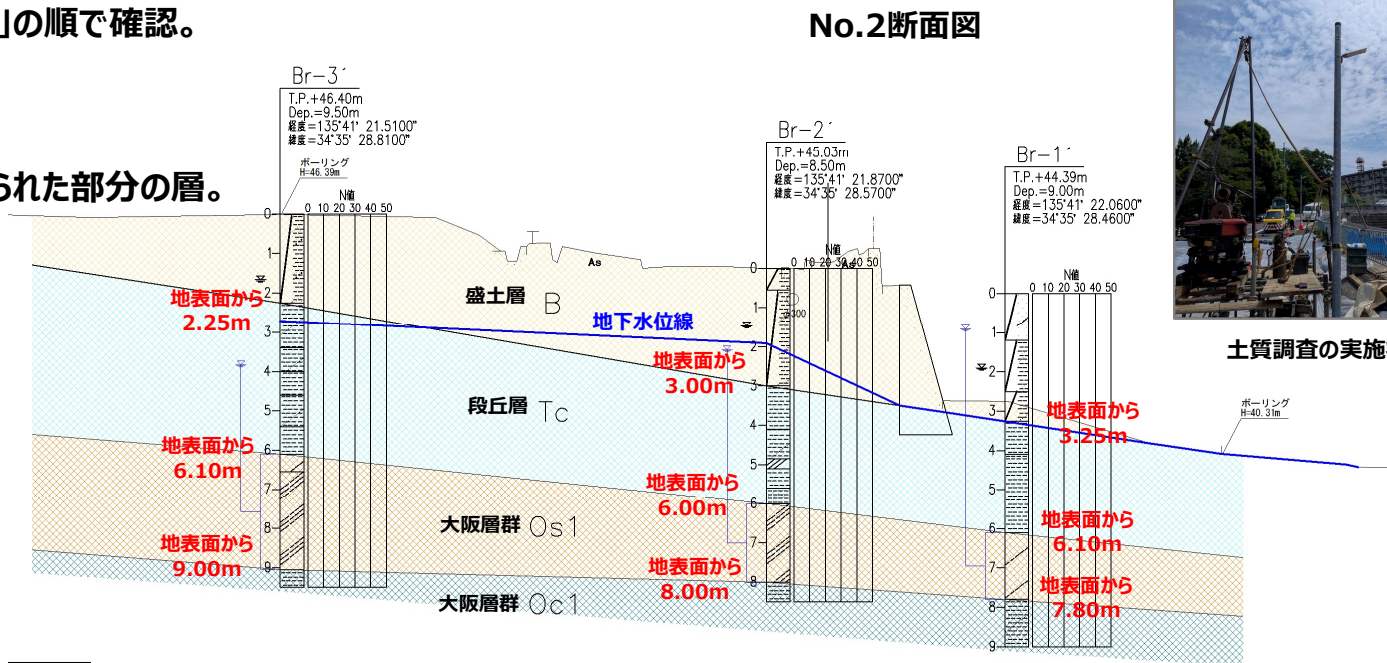
- ・過年度の道路工事等によって、地山から盛られた部分の層。

【段丘層（Tc）】

- ・河川が運んできた土砂が浸食・堆積作用を受け、形成された地層。

【大阪層群（Os1、Oc1）】

- ・約300万年前～約数十万年前にかけて近畿地方に堆積した地質。
- ・砂礫層と粘土層が重なった形で、土質調査からは、硬い地質であることを確認。

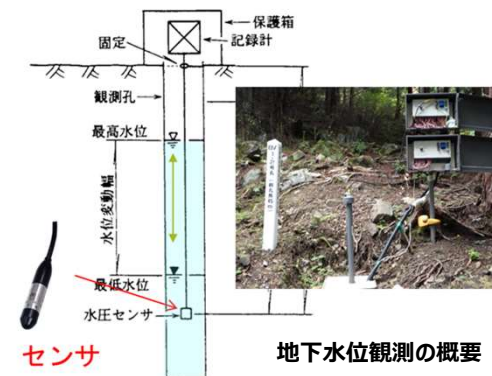


土質調査の実施状況

土質調査状況（No.2）

②地下水位観測調査

- 地下水位線を観測するための調査
- 各観測孔の地下水位観測状況（9月末）は、以下のとおり
- ・Br-1：地表面から約2.0mの深さ
- ・Br-2：地表面から約2.5mの深さ
- ・Br-3：地表面から約3.0mの深さ



各調査結果の詳細について(9月末時点)

③変状観測調査(移動杭観測)

- 観測基準点(固定点)に対して、各杭の移動量・移動方向を観測。
- 大型土のう設置完了日(5/27)以降は、ほぼ変状なし。



移動杭観測の実施状況

④変状観測調査(地盤伸縮計観測)

- アスファルトの開口亀裂をまたぐように機器を設置し、亀裂の動きがあるかどうかをリアルタイムで自動観測するために実施。
(地盤伸縮計が『2mm/1時間』を2回連続で観測した場合、
警報器(赤ランプ)が点灯しますので、通行しないでください)
- 6/20に観測を開始し、ほぼ変状なし。(約3mmの変位)



地盤伸縮計の設置状況

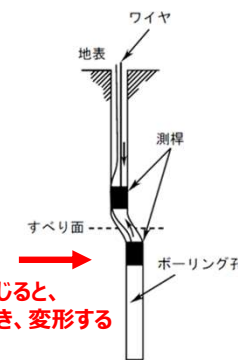


警報器(赤ランプ)

⑤パイプ式歪計調査

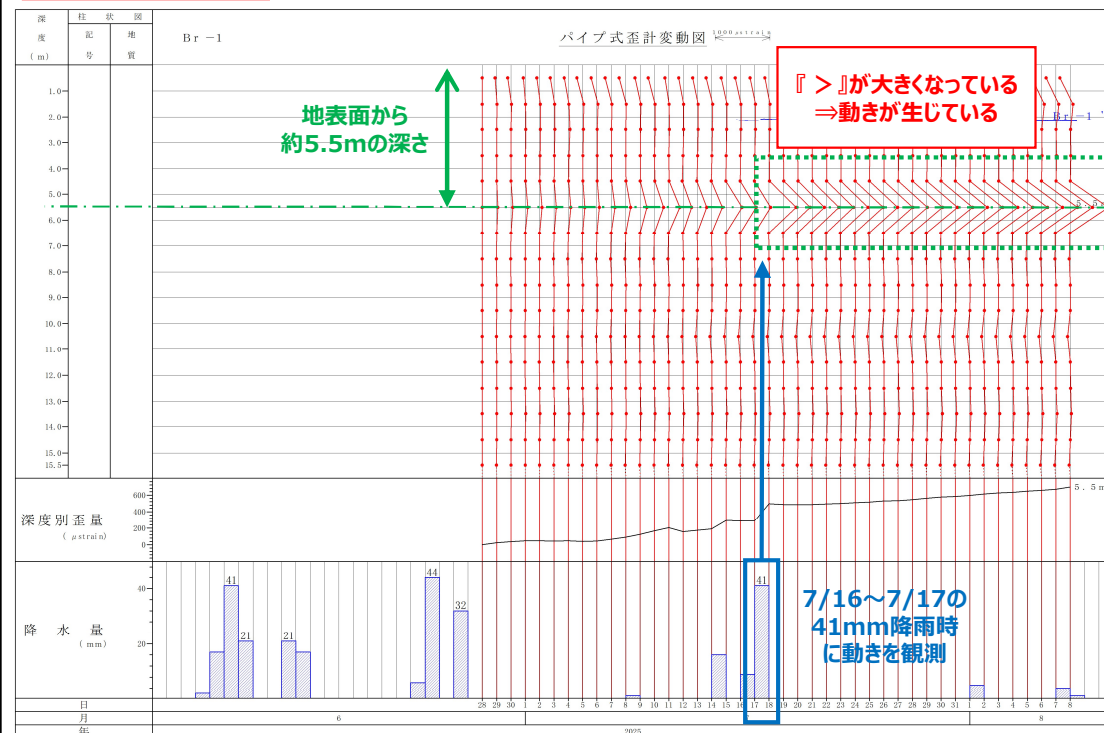
※歪(ひずみ)：物体の変形状態を表す尺度

- 地中内のどの部分(地表面からの深さ)が動いているかを観測。
- Br-1、Br-4では、地中内でわずかに動きを確認。
 - ・Br-1：地表面から約5.5mの深さ
 - ・Br-4：地表面から約4.5mの深さ
- ※地表面にほとんど動きがないことから、道路が崩れる心配はありません。
- その他の箇所では、変動なし。



土塊に動きが生じると、
パイプ歪計が動き、変形する

Br-1の観測結果



パイプ式歪計の観測状況